

# 眠りスキャン活用法

## ～眠りからのQOL～

社会福祉法人 志賀福社会

特別養護老人ホーム 真野しょうぶ苑

生活支援課 係長 三木 貴文



# 施設またはサービスの概要

平成6年 社会福祉法人 志賀福社会設立

平成7年 大津市南小松にて近江舞子しょうぶ苑を開設

現在特別養護老人ホーム

(従来型多床室50床、ユニット型個室30床)

在宅サービス (デイサービス・ショートステイ・

居宅介護支援センター・福祉有償総合事業所を展開)

平成30年 大津市真野にて真野しょうぶ苑を開設

特別養護老人ホーム (ユニット型個室60床・空床利用型ショートステイ・

企業主導型保育事業を展開)

令和4年 真野しょうぶ苑にて従来型個室ショートステイ事業 3床を開始



# 眠りスキャン導入の経緯

平成30年 真野しょうぶ苑を開設

開設準備の段階で夜勤スタッフの負担軽減や看取り支援を行っていく方針から、

見守り支援システム “眠りスキャン” を全室に導入した。

# 見守り支援システム“眠りスキャン”とは？



- ・シート状のセンサーをマットレスの下に敷き込むだけで、身体に何も装着することもなく、ベッド上のご入居者の呼吸数、心拍数、睡眠・覚醒状態、ベッドからの起き上がり、離床動作などを遠隔においてリアルタイムに把握することができるセンサーである。

# 利用者の状態を一覧表示



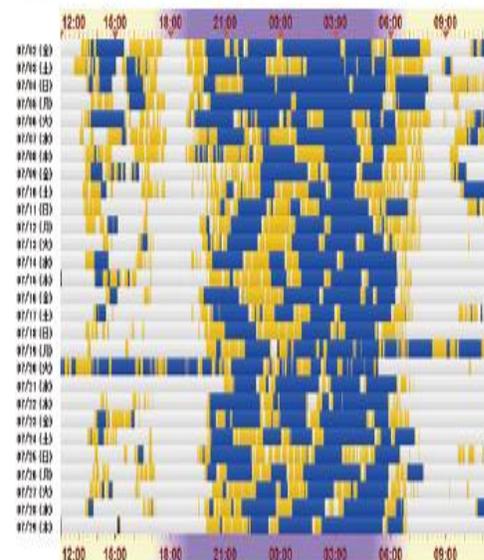
## リアルタイムモニター機能

各利用者様の状態をリアルタイムで一覧表示。夜間、各利用者様の睡眠や覚醒状態を確認することで、スタッフは効率的に適宜必要なケアを提供することができる。

## ▶ 睡眠日誌

- ▶ 睡眠日誌で利用者様の生活リズムを把握して、一人ひとりに合わせたサービスを提供できる。さらにサービスを改善した結果も睡眠日誌で見ることができるので、「検討・提供・検証・改善」といったサービス改善サイクルにつながる。

## サービス改善前の睡眠日誌



# 眠りスキャン活用課題①

～見守り支援システムとして～

- ★安心・安全な生活を提供するための機器設定基準が不明確。
- ★より安心・安全な生活を送っていただけるような活用を。



# 課題①へのアプローチ

- ★見守り機器眠りスキヤンの各設定においてマニュアルを作成し基準を明確化した。
- ★各利用者担当職員が、マニュアルを基に毎月設定の確認・変更申請を行うことで継続して意識していく。



- ・無効…身辺動作が自立されており、転倒リスクもなく見守りが不必要な方。また自身で離床動作が行えないため、ベッドからの起き上がりや体動がみられない方は転落リスクも低いと考え「無効」設定とする。
- ・離床…所在確認が必要な方や、離床され立ち上がり時に見守りや介助が必要な方や、離床後の行動を見守る必要がある方は「離床」設定とする。
- ・起上り…ベッドより転落リスクが高い方や、立ち上がり時に見守りや介助が必要な方で転倒リスクが高い方に「起上り」設定とする。
- ・覚醒…ベッドより起き上がられた際に、転落や転倒リスクが高い方で、更に覚醒されてから離床動作が早い方は「覚醒」設定とする。

※それぞれの検知において、リスクに応じたアラーム 回数を、訪室優先順位に応じて設定。

訪室優先順位高い⇒3回、中⇒2回、低い⇒1回とする。

※リスクレベルが同等の入居者（利用者）がいる場合には、アラーム音を変更する。

\* 現在ご入居されている方に関しては、担当者が毎月確認し、必要があれば役職者に報告し設定を変更する。また役職者も担当者に設定変更の必要性の助言を行い、職員の資質向上と眠りスキャンを有効活用していく。

\* 新規ご入居者や新規SSの方について

情報が少ない新規ご入居者や、新規SS入居者に関しては、どのように過ごされるか把握できていない方に関しては、入居されてから3日間は「起上検知」設定とし様子観察し記録をする。日勤リーダーと夜勤者の記録をもとに、ユニットCW内で話し合い、適正な設定に変更する。

\* 退院後の設定について

退院後の状況が把握できるまでの間は必要に応じて起上がり検知を設定する。

# 課題①の取り組み結果

それぞれの利用者様の状況に合わせた設定をマニュアルに基づき行うことで、訪室や支援の優先度が明確になり、居室での眠りスキャンを活用した事故の予防に効果を発揮している。



各職員の意識向上や訪室するタイミングが整い、利用者様の安心・安全な生活の提供と共に、職員の肉体的・精神的な負担も減った。

# 眠りスキャン活用課題②

～QOL向上機器として～

取り組みまでは夜間に起きておられるか？眠っておられるか？程度の活用に留まっていた。



夜間帯のみの活用から、朝、日中の活用へ

⇒眠りの状況把握から生活の質の向上へ

つなげるため、QOL向上機器としての活用！

# 課題②への取り組み

★朝の職員主体の起床支援から、眠りスキャンを活用し覚醒状況に合わせた利用者様主体のアプローチへ。

★日中、利用者様の生活リズムに合わせたケアにおいて、アプローチのタイミングや方法を眠りスキャンの情報から検討する。



# 課題②アプローチの結果

利用者様それぞれの睡眠状況から、適切なタイミングでの支援を行うことで、日中の精神状態が安定し食事や排せつ、日中の活動から夜間の睡眠に繋がるなど、様々な場面で効果が見えることがあった。



又、職員は「朝のアプローチが一日を決める」という場面を経験し上記効果を意識した支援を継続できるようになった。

# その他の取り組み

眠剤服用者に対しての適否を医師に上申しケアマネやご家族との情報共有のツールとして活用した。



## 【結果】

睡眠日誌により、眠剤の効果を見える化し根拠を示しながら、多職種を含めたカンファレンスが行うことが出来るようになった。

⇒ 『睡眠』時センサーではあるが、『睡眠』時以外でも使用することでより良い支援（QOL向上）に使用していきたい！！

ご清聴ありがとうございました

